

### 活躍する文化サークルの横顔

#### E・S・S



E・S・Sの源は、旧神戸高商語学部である。しかし、その成立の時期や、性格などは、それが余りにも古いということ以外、全然わからない。ただ、神戸高商、及び神戸商大は、その語学教育を、非常に重視していたから、その中において、更に、語学部で活躍した部員は、さぞ優秀であつたらうと推察するのみである。このことは、現在、神戸大学や、一橋大学などで教鞭をとっておられる先生方の名前の多くが、古い部員名簿の中に見出されることからいえる。

現在E・S・Sは、約二百名の部員を擁し、夏季合宿の参加者数で見ると、過去三年間に、平均約七割の成長率を示している。また量と共に質も向上し、最近では、わがE・S・Sのハード・トレーニングは、近隣の大学の間でも、有名になっているようである。

通常我々がE・S・Sと呼びなれているこれらの文字は神戸大学E・S・Sの場合には他の大学とは違っている。他大学ではイングリッシュ・スピーキング・ソサエティーであるのに反し、神戸E・S・Sはイングリッシュ・スタディー・ソサエティーである。我々は単に英語を話すことを目指しているのではない。勿論E・S・Sにとって英語は欠くべからざる要素である。しかし英語はあくまでも我々の思想や考えを他の人に伝達する手段として用いられるべきである。だからE・S・Sにはより正確また明確に自分の意志を相手に伝えるための道具としての英語の研究とその英語を用いて話す内容の素地となる様な知識や能力の涵養とを目的とするのである。

E・S・Sの活動は多岐にわたっている。簡単にみても、部員の訓練、各分校との連絡、他大学E・S・Sと

れた発声と充実した音楽性をもち、関西の新界にユニークなスタイルを創りつつある。しかし、多くの学生団体であるため、ある点では清新感の欠けた風を満ちすが、他方マナーに陥り易く、毎年の

の交歓会、各種コンテストへの参加及び主催、印刷物の発行、部員相互理解の促進等々である。

対外活動では一昨年度は全国優勝をなし逃げたが、昨年度は優勝を逸した。しかしE・S・S部員が今年こそはという意気に燃えている。又三十六年度からはぜひ雑誌E・S・Sタイムスを復刊したいと考えている。

#### マンドリン・クラブ

マンドリン音楽の歴史は古く、現在では多くの愛好家が居り、高貴な親しみ易い楽器を奏するその音楽のもつ真の芸術的価値に対する認識もますます一般の間に深まりつつある。このクラブは、この様なマンドリン音楽の愛好家の集まりであり、この高貴な感じのする音楽を一般に紹介してくれる。

一九五九年四月に復部し、六月に文化総部加入が正式に承認された。当時は、部員十二・三名の小さなやかなクラブであった。現在で

810401-ETC  
1961 神戸大学マンドリンクラブ  
(田代)



## シェル石油株式会社

東京・丸の内・東京ビル  
電話 (231) 4371

神戸大学応援団 創刊号  
昭和三十六年四月十日印刷  
昭和三十六年四月十一日発行

発行者 團長 菅 正徳  
編集責任者 木村 温  
編集担当者 美野 英久  
広告担当者 加古 恒博

印刷者 神戸出版印刷株式会社  
神戸市生田区栄町通二丁目二四  
発行所 神戸大学応援団  
神戸市灘区六甲台町